

# みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

## 人になれ奉仕せよ

聖句 : わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

(ヨハネによる福音書 15:12)

保育目標 : 0歳児 ・自分から周りの人や物に関わって楽しむ。 ・大きくなったことを喜ぶ。  
 1歳児 ・自分でやりたいという思いがでてくる。 ・大きくなったことを喜ぶ。  
 2歳児 ・自分でできることが増えたことを喜ぶ。 ・大きくなったことを喜ぶ。  
 年少組 ・大きくなったことを喜び感謝する。 ・うれしい春を待つ。  
 年中組 ・大きくなったことを喜び感謝する。 ・うれしい春を待つ。

寒さの中にもやわらかな陽射しに、芽吹き始めた木々や花々に春の訪れを感じます。先日のてんらん会には多くの方が集ってくださりましてありがとうございました。一人ひとりの大きくなった軌跡やその子の今、が様々なかたちになって表されていました。その子らしい自分づくりが積み重ねていかれることを願い、これからも豊かな体験や表現につながるアート活動を行っていきたいと思います。

さて早いものでこども園の一年間のカレンダーは終了を迎えるときとなりました。スタートの頃を思うとなんと子どもたちは大きくなったことでしょう。行きつ戻りつしながらも着実に成長をしていることを思われ、改めて一人ひとりに育つ力が備えられていることを思われます。

生を受けてたった4、5年で家族以外の人たちと共に生活し、自分の思いを表現しながら、相手の思いに気持ちを向けて行動しようとする力が育まれてきています。子どもたちは夢中になって遊ぶ中でたくさんの学びを得、仲間とのかかわりの中で大きくなってきました。それは気の合う友だちとの嬉しい経験ばかりではなく、時に思い通りにならず、はじかれたり、否定されたり、苦い経験もしながら、心の枠を広げ、関係を広げながら心の壁を豊かにしてきたのではないかと思います。

ある日、時々お顔を覗かせてくれるM君が泣きじゃくりながらやって来ました。泣いている訳は察しがつかず。そこで、「どうしたの?」と答えを予想しながら何度か聞いてみました。彼は泣いたまうまく言葉になりません。そこへ友だちのT君がやってきました。わけを聞こうとしている私に「先生、それじゃあダメだよ。」と言うと、「だいじょうぶ?だいじょうぶだよ。落ち着いて話せるようになったら、話してね」と背中をさすりながら心配そうに顔をのぞき込んでいました。T君のあたたかい気持ちに答えるように、M君の感情も収まって、ゆっくり話しをしてくれました。先走って答えを引き出そうとしていた私は猛反省しながら、「やさしい気持ちをありがとう。こんなに大きくなって神さまにありがとうだね。」と言いました。友だちの思いに寄り添い、共感しようとしている姿に私が教えられました。

大人の反応や対応のあり方が子どものやる気や自信、心を育てます。しかし大人以上に、子どもは仲間

に支えられ、かかわり認め合う中で自分の存在を意識しながら大切な見えない力を貯えます。

我が子の周囲にいる違った個性を持つ一人ひとりは成長に欠かすことのできない大切な仲間です。負と思える出会いや出来事もまずは受けとめ励ましながら、子どもの力を信じてゆくことで、子どもは自身で乗り越えていきます。それは本当の力となっていきます。子ども自身に愛されている、支えられている土台さえあれば、子どもは自ら波に向かい越えてゆく力を持っています。

私たち自身もまた様々な出会いや出来事を糧とすることができたでしょうか。子どもたちに負けず成長できたでしょうか・・・? 「優しさ」とは字のごとく、人の憂いや悲しみを受けとめられること。それは自身がその経験をしていてこそ思える感情です。この一年、あるいはこども園に通う日々の中で様々な体験を親子でなされたことでしょうか。しかしそれはそこを通らなければ気づかなかった、気づかないものに気づかされる道であった、そのために用意されていたと思うことができたなら、なんと幸いなことでしょうか。私自身長い保育者生活の中で、様々な出来事や出会いがありました。今振り返りますとマイナスと思える出来事や出会いの中に私自身の成長があったように思います。行き詰ってどうにもならない時にふと見上げると上の窓はいつも開いていて、神さまが受けとめてくださり平安を与え行く道を示してくださいました。自分自身を明け渡したときに神さまのみ業がみえてきます。

いつもどこにいても神さまは共にいてくださいます。子どもたちにはこども園で出会った神さまが心の中に種火となって残り、これからの大きくなっていく道を導き、いつか人生の支えとなることを心から願い祈ります。新しい学校生活の上に、ご家庭の上に神さまの豊かな祝福とお守りがありますよう心よりお祈り申し上げます。私も今年度を持ちましてこども園を卒業させていただきます。

今までの歩みを感謝しつつ、保護者のみなさまの様々なご協力に深く感謝申し上げます。

園長 根津美英子